

人形淨るり番付の始

人形芝居の番付については、「人形芝居の研究」の項目に、可なり詳しくその變遷を述べておきました。（口繪番付参照）然しその番付の始りはいつであるか、どこまで年代を遡ることが出来るかといふと、實は現在發見されてゐる資料では何とも斷定が出来ません。恐らく番付の始めは「半切れ」に太夫の語り場と、人形役割の主なるものが粗雜なる瓦版式の印行で、人形芝居の場内で客に配ばられたものと推定は出来ませんが、實物を見たことがない。年代からいつてすと後の元文元年からの番付ならば略、年代を追ふことが出来ませんが、元文以前どこまで遡ることが出来るか、疑問である。別項では豊竹古靱太夫の所藏にかゝる享保十八年七月の古番付を以て、私が見た最古の番付であるといふことを記しましたが、その後の調査によりますと、もつと遡る事が出来ます。

大阪鰻谷の三臟圓吉野五蓮氏の襲藏にかゝる「許多脚色帖」は、有名なる大阪芝居番付の集大成であるのですが、今日までこの「脚色帖」を芝居の方面からのみ私は見續けて來たのですが、最近機會を得て、人形淨るりの資料を探求する意圖を以て、改めて數日閲覽しましたが、茲に元文以前の人形淨るり

の番付を寓目しました。

例へば――

○享保十年五月 美丈御前
幸壽丸身替弓張月

太夫 豊竹上野少掾 豊竹座

○同年九月 大鳥の眞鳥

太夫 竹本筑後掾 竹本座

○享保十一年二月 曾我錦几帳

豊竹座

○享保十六年四月二日 おなつ
清十郎和泉國浮名溜池

太夫 豊竹上野少掾 豊竹座

又時代の早いところで、人形の役割のある番付では、例へば――

○享保十六年亥九月十二日 鬼一法眼三略卷

座本 竹田出雲掾 竹本座

などがあります。

更らに東京帝國大學國文學研究室で、守隨憲治氏の厚意で借覽した、享保度の人形淨るりの最古の番

付は、

○享保三年戊戌正月二日 鎌倉三代記

太夫 豊竹上野少掾 豊竹座

があります。これを以て見ると、今日まで私が見た最も古い番付を、享保十八年七月のとした事を訂正して、享保三年のこの「鎌倉三代記」のを寓目中の最古のものとせねばなりません。歌舞伎番付が元禄初年のものが段々と發見されてゐますから、人形淨るりのもの、この享保三年よりもすつと遡つて元禄期のものであるでせうと推定はしますが、今日の所では享保三年が最古で、寛永、正徳のもすら發見されてゐません。(昭和五年六月十一日)